

No.

麗澤大学図書館

書名	デマの影響力		
著者	シナン・アラル	請求記号	361.45/A64
著者のプロフィール・紹介			
マサチューセッツ工科大学にてハイプマシンを構成するソーシャルメディアについて研究をしている。肩書は科学者であり、起業家であり、投資家である。			
本の概要・要約			
偽の情報は本物の情報よりも早く広まり、人々の行動を誤った方向に導く。情報は偽物でも、行動は本物で、それによる影響も本物である。そして嘘が地球を半周する頃、真実はまだ靴も履き終わっていない。本書の言葉であるが偽情報というのは我々が想像するよりも早く、より早く世界へと広がる特性がある。それだけではなくその影響力は時として、我々の行動、考え、信念すら簡単に捻じ曲げてしまうほど強力である。その偽情報の震源地であるソーシャルメディアというのはその特性上、誰もが気軽に情報を発信できるがゆえに偽情報が広まりやすいという欠点を持つ。確かにそのような欠点を持つ一方でソーシャルメディアは人と人との意味のあるつながりを生み、協調性を促し、困難時には互いに助け合うなど社会、個人にとっても良い側面を持つ。だが重要なことは我々はそれを有用なのか害悪なのかで論ずるのではなく大事なのはその時、何を学ぶのかである。それを忘れてはならない。			
論評(この本を読んであなたが感じたこと、心に響いたこと、主張等)			
新型コロナの流行を境に我々の生活は一変したと思う。締め切りに追われる作家でないにもかかわらず自宅へ缶詰にされる生活を余儀なくされそろそろ悟りを開きそうになっていたところであった。別にそれは私だけに限定される話ではないと思うがこの懲役4年間の自粛生活というのは孤独をこよなく愛する私にとっても人との繋がりは大切であると再認識させられた出来事であったと同時に偽情報に踊らされ迷惑を被ることも多々あった。本書はそんな偽情報に踊らされやすい私に効く薬なのではないかと思いい、手に取った次第である。人は良くも悪くも影響を受けやすい。そんなの当たり前であるといわれるかもしれないが、では本当に我々は影響を受けていることを自覚しているのだろうか。実は我々が普段何気なしに使っているSNSはハイプマシン「これは筆者の作った造語であり、誇大宣伝機械という意味であるが言い換えるとSNSをはじめとするソーシャルネットワークシステムである」の影響をかなり受けていて、つまりその個人の嗜好をハイプマシンが学習し、そのユーザーの興味を惹きそうな情報を表示し最適化していく。「情報の豊かさは注意の貧困を生む」という言葉が本書にあり、ハイプマシンが情報を絞ることで我々の選択肢にかなりの影響を及ぼすということである。これらのことはSNS上での友達推薦システムでも同じアルゴリズムが採用されているらしく一見すると多様な人間関係で繋がっているように見えるかもしれないがその実は同じような思考、趣味、同じ学校の人が集まっているにすぎないということである。もっと言えばデジタルソーシャルネットワークが誰と誰が繋がるかある程度決めてしまっている。このようにしてハイプマシンは我々が何を読むのか、誰と友達になるか、これから何をしようかという選択肢に多大なる影響を与えてしまう。とはいってもSNSにおすすみ表示で紹介される情報がたとえどんなに強力な時としてすさまじい影響を我々に与えると言えど、元を辿れば人間の発信した情報である。この情報に満ち溢れる今日、SNSで拡散される偽情報の規制も急務かもしれないがそれよりも情報の受信者たる我々がどんなに否定しようとも偽情報に飛びついてしまう性質があり、ささやかなことにも影響を受けてしまうという自覚を持つこと、そして情報リテラシーを身に着けることが重要であると考え。			
この本のおすすめポイント(どんな人にこの本を勧めたいか)			
500ページを超える分厚い本であるため時間を持て余した迷える暇人にこそ読んでいただきたいと思う。			